

2024年度 秋の大運動のとりくみ

1、実行委員会について

秋の大運動事務局体制

実行委員長一菅野 園子（大阪保育運動連絡会）

社会福祉経営全国会議大阪支部・大阪自治体労働組合総連合・全国福祉保育労働組合大阪地方本部・大阪保育運動連絡会・大阪学童保育連絡協議会

1、実行委員会について

大阪保育運動連絡会、大阪学童保育連絡協議会がそれぞれ毎月行っている運営委員会において秋の大運動を推進していきました。

保育めぐる情勢報告をもとにブレイクアウトルームでグループごとに、各地域のとりくみや保育状況などを交流しました。

今年のテーマは「みんないろいろあるから、励まし合って、協力して楽しく取り組もう」です。

各地域・団体が学習や宣伝活動を行い、保護者と保育者一緒にとりくみを進めました。

署名目標については過去には50万筆以上集めていた署名が毎年少しずつ減っているが、コロナの中でも止めることなく学習、宣伝活動（ブロックごと）などのとりくみを継続させていることを評価するとともに、「毎年、昨年の署名数を上回ろう！今年の目標は18万！」（昨年は171,610筆）としました。

会議では地域での取り組み状況を

2、スタート集会について

9月15日（日）にスタート集会を行いました。たかつガーデンの会議室を会場とオンラインも併用しました。地域・保育園ではサテライト会場を設定しみんなで視聴しているところもあり、参加人数は会場が約50人でオンラインを含めると330名を超えました。今年の集会は保育士不足が続く中「保育が成り立たない…」「子どものために頑張りたいけど、これ以上は無理…」という現場の状況、保護者は「日々の生活に余裕がなく、署名活動までできない」という率直な意見が出される中で東大阪市立の保育士、堺市の民間の園長、東大阪市の学童保育指導員、富田林市の保護者が「実情と願い」を語るリレートークを行いました。そしてまとめとして横浜市立大学名誉教授の中西新太郎先生に「みんなが大変 からみんながいるから大丈夫」と題して、お話してもらいました。リレートークでは「分かる 分かる」と共感が広がり、中西先生のお話を聞いて「みんなが集まってみんなの悩みを聞いて、話して肩の荷がおおりる」「人とのつながるのは労力のいることであきらめてしまいそうになるけど、その労力は無駄ではなくかけがえないもの」という感想が寄せられました。

3、自治体キャラバンについて

① 3・4・5歳児の配置基準改善について

自治体は補助金申請の状況から実態つかんでいる。多くの施設で改善されている。

② 待機児童と定員割れの状況

以前ほど待機児童が問題になっていないが、まだ、自治体として待機児童をゼロにするため、対策を検討している感じ。(枠拡大、認定こども園化など)

③ 保育士確保について

多くの自治体が一番の課題としてとりくんでいるように感じる

- ・就職フェアの開催・保育業界最大手「保育バンク」に業務委託・就職祝い金
- ・奨学金返済支援補助金・国の事業を活用(宿舍借り上げ・保育体制強化事業など)

④ 公立施設の計画

・民営化・認定こども園化が終了した地域では公立施設の建替えが課題に。

(摂津・茨木・池田では建替え予定)

・公立保育所と幼稚園の統合、認定こども園化計画(高槻・岸和田など)

一時預かり事業について

自治体は補助金をだしているので利用者数はつかんでいるが各施設で実施している一時預かり事業の内容についてあまり把握していない印象をうける。

⑦ こども誰でも通園制度について

・来年は試行的に手をあげる予定(採算が取れるのか)

・制度の詳細が分からないので検討はこれから(手をあげるところがない。保育士不足の問題)

・一時預かり事業との違いがわからない。

・待機児童の解消にちからを入れたい。

⑧ 質問項目以外で公立施設のDX化について

登校園と保護者への連絡は多くの自治体で使われている。記録や計画、連絡帳などを導入しているところもある。保育料の入金は引き落とし、コンビニ払い

5団体の関係者が揃って懇談を行うことで、それぞれの立場から意見交換ができます。キャラバンは交渉ではなく、担当課としてどのように保育行政を考えているのか聴きながら私たち保育関係者の意見を伝える場です。今後も各団体の運動に活かせるよう、参加を進めていきたいと思えます。

4、全国行動について(11月4日)

11月4日(月・祝日)日比谷音楽堂にて大集会が行われました。全国から保育関係者、保護者と子どもたち約1800人が参加しました。(大阪からの参加者は23名)基調報告では、全国保育団体連絡会より「76年ぶりに4,5歳児の保育士配置基準が変わっても保育士が増えた実感がない」「声を上げ続けて、保育園増設や保育料無償化を実現させた。声をあげれば変えられる。あきらめず声をあげていこう。」と呼びかけられました。各地からも運動や願いが報告されました。子どもたちの参加も多く手遊びをしたり『民舞 虎舞』を披露したりしてくれるところがあったり、寸劇で保育の大変さ、現状を訴え処遇改善、よりよい保育がしたいなど、たくさんの訴えがありました。

大集会後には、7てい団に分かれて「保育を守ろう」「学童守ろう」と元気にシュプレヒコール

をしながら、銀座の街をパレードし盛り上がりました。

5、国会議員要請行動

12月5日に臨時国会に署名を提出するため議員要請行動に取り組みました。大阪からは15名参加し、大阪選出の国会議員を回りました。少子化が続く中、保育や学童保育、子育てに対して国会議員が関心を持っていることがよくわかる要請行動でした。議員本人、秘書の方がしっかり私たちの話をきいてくれました。全体で94名、大阪の議員は6名（共産2人・立憲・社民・れ新）が議員が紹介議員になってくれました。

2月5日にも通常国会に提出するため議員要請行動に取り組みました。大阪8名参加しました。

紹介議員には大椿ゆうこ（社民）大石あきこ（れ新）八幡愛（れ新）森山ひろゆき（立憲）

辰巳こうたろう（共産）平岩まさき（国民）石川ひろたか（公明）山下よしき（共産）

12月より増えて8人が紹介議員になってくれました。

6、宣伝行動について

12月1日（日）心配していたよりも寒くなく青空の下、空堀桃谷公園グラウンドに100名以上が参加してくれました。集会では、署名を商店街で集めたお父さんの報告、学童の保護者の方の報告、公立施設全廃を打ち出した守口市の事など大阪府内の報告や訴えが行われました。仕事と子育てに頑張っている保護者、人手不足の中でも子どもたちの保育を守っている職員。みんなでリアルに集って聞くことができ良かったです。署名を集め、国会や府議会に請願すると共にもっと多くの人にアピールし、知ってもらわなくては！と痛感。

大きな道路をみんなで歌をうたい、シュプレヒコールしながら歩きました。道行く人がニコニコと手を振ってくれたり、プラカードを読んでもくれたり…こんな行動も大切だと感じた集会とパレードでした。しかし、各地域でも宣伝活動をおこなっていることから、大阪全体で行う事が必要なのか、来年度にむけては実行委員会で議論し決めていく事が求められる。

6、大阪府議会議員懇談

すべての府議会会派に連絡し懇談と所為会議員の申し入れを行いました。大阪なにわの和の笹川議員・大阪未来プロジェクトの議員・無所属の松波議員、森西議員と懇談を行うことができました。各議員とも保育、学童保育の現状や問題点について話をよく聞いてくれました。（紹介議員についてはまだ検討中）日本共産党は紹介議員ってくれますが、維新の会、自民党、公明党は懇談も紹介議員も断られました。民主ネットは返事待ちです。

最後に

大阪府署名は2月25日に大阪府へ提出します。大阪保育運センターに2月20日必着。